

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891400016
法人名	あいの里有限会社
事業所名	グループホームあいの里
所在地	西予市野村町阿下6号588番地
自己評価作成日	平成 26 年 12 月 24 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 1 月 29 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

26年度より音楽療法を取り入れている。毎月、職員会の後で、専門の音楽療法士よりスタッフが講習を受け、日中に利用者と一緒に音療を行っている。まだ初歩の段階だがゆくゆくは極めて行きたい。又、広い交流館がある事で各種演芸ボランティア団体の慰問も数多くあり、その時は地域の方にも必ず声掛け、参加して頂き、利用者と同様顔なじみの関係を構築、楽しみに繋がっている。本格的なカラオケも購入し、カラオケを利用したりハビリ体操や、ビンゴゲームも好評を博している。広い菜園では四季折々の野菜や花を栽培し、利用者と一緒に収穫した採れ採れの新鮮な野菜をふんだんに食卓に乗せる事ができるのもあいの里ならではの自負している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に囲まれた高台にある事業所の家庭菜園(百彩園)では、四季折々の野菜や花を地域住民や利用者に手伝ってもらいながら栽培している。利用者は畑に出ることで季節を感じることができ、収穫期を利用者は楽しみにしており、近隣におすそ分けもしている。事業所に増設した交流館にはステージを備え、カラオケ大会や演芸のボランティアなど、地元住民との交流を兼ねたイベントを盛んに行なっている。また、今年度から音楽療法を取り入れ、専門家から職員が指導を受け、利用者へ落ち着きのある生活が送れるよう支援している。管理者と職員は利用者へ寄り添いながら、人生の先輩として尊敬の念を持って支援に取り組んでいる。また、愛媛県地域密着型サービス協会から研修参加に熱心な事業所として表彰を受け、職員が研修に参加しやすいようサポートを行うなど職員育成に力を入れており、今後も職員の質の向上が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあいの里

(ユニット名) さくら

記入者(管理者)
氏名 柴田 薫

評価完了日 平成 26 年 12 月 24 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ホーム内の目に付きやすい場所に数か所貼り付け、お互いに意識しながら実践するよう心掛けている。</p> <p>(外部評価) 理念は玄関や各ユニット、事務所の目につく場所に掲示し職員全員で共有している。毎月の職員会で利用者への接し方について話し合い、意識づけを行っている。また、理念を踏まえて年間目標を作成し、年末に評価し反省点があれば次回に繋げられる新たな目標を作成し、実践に繋げている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 開設当初から自治会に加入し、共同作業や毎月の常会には代表者が出席している。地方祭には牛鬼やおたふくの訪問があり、亥の子には子供達の訪問がある。ばら大師の縁日には利用者、スタッフが参拝し地元の方達との交流を深めている。町内外の演芸ボランティアも数多く、ご近所にも声掛けし一緒に楽しんでいる。</p> <p>(外部評価) 事業所には百彩園という立派な家庭菜園があり、地域住民に収穫などを手伝ってもらい協力関係ができています。収穫時にはジャガイモなどの野菜を近所におすそ分けするなど、地域との気軽なつきあいができています。地域の祭りには牛鬼や亥の子などが立ち寄ってくれたり、近くにある老人保健施設の運動会や納涼祭に出かけるなど交流をしています。自治会に入会し、地域行事に積極的に参加するなど地域とのつながりを大事にしている。事業所にはステージのある交流館を増設しており、近隣住民とのカラオケ大会や演芸のボランティアの受け入れなど、幅広く交流に活用している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 笑いヨガ、リハビリ体操、演芸等のボランティア活動を通して交流することにより、認知症の方の理解をして頂きながら支援を受けている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は2ヵ月に1回、年6回定期的に開催している。利用者の状況、サービスの状況、課題等を報告、適切なアドバイスを頂き、サービス向上に役立っている。委員さんは真剣に協議して頂き、当ホームの行事等にも参加、協力して頂いている。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、民生委員、地域代表、元施設長、社会保険労務士、市担当者、地域包括支援センター職員等の参加を得て開催している。会議では利用者の状況や行事等の説明、課題等を報告し、参加者と話し合いをしている。会議で話し合われた内容から、地域の消化栓とホース収納庫が事業所内に設置され、防火対策にも繋がっている。管理者は他の事業所のモデルになれるような事業所づくりに取り組んでおり、参加者の意見をサービス向上に活かしている。また、新たな参加者の呼びかけや、利用者や職員が順次参加できることも検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市担当者とは、本庁、支所共に何でも相談し易い関係を築いている。支所の担当者は運営推進委員としてもアドバイスや協力を頂いている。介護相談員の訪問も年3回受け入れ、相談員からは現場でのアドバイスや事後報告書を、市の担当者を通して頂いている。	
			(外部評価) 市担当者と地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加しており、事業所の様子を知らせてもらうほか、利用者の相談をしたり必要なアドバイスを受けたりするなど、相互の情報共有を行い良好な関係を築いている。ヒヤリハットも迅速に報告している。また、年3回介護相談員を受け入れ、利用者のお話をゆっくり聞いてもらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の施錠は夜間のみで、居室には鍵はない。職員会議（内部研修）で話し合い、身体拘束の意味を十分に理解し、日々のケアに当たっている。	
			(外部評価) 職員は利用者に寄り添い、見守ることで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、勉強会やミーティング等で身体拘束をしないケアについて話し合い、職員は正しい理解をして実践している。日中玄関は施錠せず、利用者は自由に出入りすることができる。現在、骨折後の利用者の安全面に考慮し、医師の指示と家族の希望もあることから同意を得て、車いすのベルトを使用している利用者がある。また、言葉での拘束にも職員全員で意識しながら、適切な対応をするよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 身体的虐待はあり得ない。不適切な言動が見られた場合はその場で注意をしている。又、職員会等で話し合いの場を持ち、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度は知っているが、実際に利用しているケースがないので、十分に理解していない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居申し込みや入居契約時に十分な説明を行っている。改定事項が生じた場合は説明を行い、納得の上同意を得ている。家族会や面会時にも随時説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会、ケアプラン更新時等に意見や要望を聞くようにしている。又、家族会ではスタッフが入らず家族のみでの話し合いの場を設けており、忌憚のない意見を頂いている。身体状況、受診状況も随時報告している、担当者が2か月に1回お便りを書き利用者の様子も写真入りでお知らせしている。	
			(外部評価) 面会時や運営推進会議に参加した際に、家族に職員から話しかけるなど会話する機会を多く持つことで、思いや意見を聞くよう努めている。年1回家族会を開催し、職員が手作りの食事でもてなすなどの交流を図っている。家族会では家族同士で話し合い時間を共有することにより、率直な意見が出されている。また、利用者毎の担当職員が2か月毎に写真を添えて便りを書くなど、きめ細かな対応をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月職員会を開催しており、代表者も必ず参加して、職員からの意見や要望を聞き、改善できるところは速やかに対処してもらっている。	
			(外部評価) 職員会や主任会で職員の意見や要望を聞くよう努めている。職員会には代表者が参加し、職員は意見を直接伝えることもできる。職員から提案が出された加湿器や吸引ノズル、酸素飽和度測定器など利用者に必要な物品を揃える対応をしている。代表者の意向で、業務がマンネリ化しないよう年1回職員の異動を行っている。また、研修にも参加しやすいようサポートを行うなど職員育成にも力を入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の勤務状況は代表者が十分把握されており、職員の福利厚生についても各自向上心を持って働けるように努められている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 常勤、非常勤の区別なく希望する研修には参加でき、参加費の負担、勤務扱い、時間給支給、交通費支給等、研修に参加しやすい体制をとっている。研修参加人数の多さでも南予地区ではトップクラスで4回連続で表彰を受けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会主催の「相互研修」にも毎年参加し、他施設との交流を図っている。各種研修会や運営推進会議を通じての交流もできている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の面接や入居時の面談で十分話を聞き、また、家族や関係者から情報を収集し、本人が安心して生活できるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時、面会時に時間をとり、十分話を聞くようにしている。家族が遠慮なく意見を出しやすい雰囲気を作るよう心掛けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族が先ず何を必要とされているか十分に話し合い、状況を見極めながら対応していく。まれに意見のない方もある。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 自分も人の役に立っている事が自覚できるよう、できることは一緒にしながらコミュニケーションを図っていく。適材適所の役割分担ができています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者の担当を決め、お便り、広報誌等で近況を報告し、より良い関係を築いている。面会時には十分に話しができる場を作り、家族にしかできない支援をお願いする等協力を得ながら本人を支えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 月に1～2回の訪問診療により、主治医や看護師との馴染みの関係を作り、継続する事により、本人、家族の安心につながっている。ちょっとした事でも相談に乗って頂くのでスタッフにも安心感がある。その他、地域行事への参加、通院、ボランティア等の来所により、馴染みの人との出会いや交流もできている。 (外部評価) 地元の利用者が多く、地域行事に参加の際や外出時に友人や知人など馴染みの人に出会うことも多い。事業所には知人の面会も多く、職員は快い対応をしている。馴染みの美容室や場所などに、家族の協力を得ながら出かけられるよう支援している。定期的に訪問のあるボランティアや受診時に会う医療関係者との馴染みの関係もできており、利用者の楽しみに繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日中は殆どの方がリビングや食堂で過ごし、お互い助け合っ て暮らしている。時には小さいさかいもあるが、すぐに仲 直りができている。孤立した利用者が出ないよう見守り、声 掛けをしながら支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これ までの関係性を大切にしながら、必要に応 じて本人・家族の経過をフォローし、相談 や支援に努めている	(自己評価) 長期入院での退去や、特養への入所後もお見舞いや面会等を 行い、関係を大切にしている。家族と出会った時にも様子を 伺ったりしている。葬儀にも弔電を送り、参列している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向 の把握に努めている。困難な場合は、本人 本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中や、ケアプラン更新時に本人の思いや要望を聞 き、できる限り添えるように努めている。担当職員がより身 近な相談者の役割も担っている。担当を中心に気付きや情報 を全職員が共有してよより良いケアに努めている。（介護記 録、業務日誌、申し送りノートの活用） (外部評価) 日々の生活の中で職員から声をかけ、利用者の思いや意向を 把握するよう努めている。特に夜間や入浴時など職員と1対 1になった時に、利用者から思いを聞くことが多い。利用者 が生活を送るうえで、職員がふと感じたことや利用者が言葉 に表したことを川柳として書き残している。調査日には、95 歳の利用者が職員に笑みを浮かべながら紙に鉛筆を走らせて いる光景を見ることができた。利用者毎の担当職員を中心 に、新たに知り得た情報は記録に残して職員間で共有し、利 用者の思いを大切にした支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、 生活環境、これまでのサービス利用の経過 等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の本人からの聞き取りや家族、関係者からの情報、親 せき、知人、友人の面会時等の状況でこれまでの暮らしを把 握するよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、 有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人介護記録、申し送り等で個々の状態を把握し、それが 出来る力を活かして生活できるように努めている。音楽療 法、リハビリ体操、散歩レク、お料理の手伝い等、個々に合 わせて、なるべく活力ある生活を送って頂くように努めてい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアプランの見直しは3か月毎に家族、本人の意向を聞き、プランに反映している。身体状況の変化に応じてモニタリングを行い、カンファレンスで協議し、的確な対応が出来るよう努めている。	
			(外部評価) 利用者や家族の意向や要望を事前に聞き取り、職員全員でカンファレンスを行い、利用者毎の担当職員を中心に利用者本位の支援に繋がる介護計画の作成に努めている。前回の外部評価での期待したい内容から支援記録の様式を見直し、介護計画に基づいた経過記録が記録できるよう改善されている。定期的にモニタリングを行い、職員全員の意見や気づきを大切にしながら、介護計画がより良いものになるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 常に利用者の状況を把握出来るように努めている。身体状況、気づき等申し送りで情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。日々の記録の中でサービスの評価が出来るよう、記録用紙の改善を実行している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の希望に応じた外出支援、係りつけ医の受診、町内の理美容室の利用等を行っている。理美容に関しては、半数以上が出張美容を利用しており、好みの髪型を指定される利用者もある。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域住民、各種ボランティア、地域の子供達、運営推進委員、民生委員、介護相談員、生活支援員等多方面から支援を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 9月より保護者の同意を得て月1～2回の訪問診療を取り入 れている。利用者個々の病状の変化を継続して報告でき、連 携も良く取れている。きめ細かく相談に応じてもらえるので 好評である。勿論、精神科、診療内科、皮膚科、眼科等、専 門医のかかりつけ医は従来通り受診、本人、家族の希望を大 切にしている。 (外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医を受診できるよう支援 している。協力医の月1～2回の往診や急変時に24時間対応 できる協力体制が整っていることから、希望して協力医をか かりつけ医に変更する利用者も多い。協力医は電話にも快く 対応してくれることから、職員の安心感にも繋がっている。 専門医の受診は家族同行を基本としているが、同行できない 場合には職員が受診介助を行い受診内容を家族に報告するな ど情報を共有している。事業所では利用者が安心して適切な 医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師は週1回勤務し、利用者の体調管理を行っている。看 護面での気づきや助言を行い、技術的な指導も実践してい る。緊急時には連絡し、指示を仰ぎ、必要に応じて来所、対 処してもらっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した場合は毎日のように面会し、状況把握に努めてい る。又、必要に応じて洗濯物の支援も行っている。病院、家 族への連絡、早期退院に向けての医師、看護婦との情報交換 も行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に、状態が悪くなった場合、ホームでの対応には限界 があることを契約時に家族に伝えている。看取りを希望する 家族もいるが、現段階では難しい。食べれなくなったり、重 度化した場合は家族と十分な話し合いをしている。 (外部評価) 「看取り指針及び対応マニュアル」を作成し、利用開始時に 事業所で対応できる内容を説明している。今までに事業所 での看取り経験はない。利用者が重度化した場合は家族に説明 し、入院措置や訪問看護の利用などの対応策を伝え、意向を 確認している。家族から事業所での看取り希望が多いことか ら、管理者は関係者を交えて職員間で話し合い、看取り支 援の体制づくりを考えている。また、心肺蘇生やAEDの使用 方法など緊急時対応の研修を実施し、職員全員で意識して対 応できるよう努めている。	「看取り指針」を定めているが、まだ事業所では看取 りの経験がないため、継続して研修を実施することを 期待したい。また、家族から看取り希望が出されてい ることから、利用者や家族の要望に応えられるよう医 療との連携など協力体制づくりを職員全員で話し合 い、職員が不安なく終末期ケアに取り組めることを期 待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年、普通救命講習は職員の殆どが受講、応急処置、AEDの使い方を学んでいる。マニュアルも作成し、対応している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練を実施、冬場の夜間想定での避難訓練では近所の人にも協力して頂いている。地域の方の進言でホームの近くに新たに消火栓も設置した。	
			(外部評価) 年2回避難訓練を実施しており、うち1回は消防署が立会うほか夜間を想定した訓練を実施している。訓練には近隣住民の参加があり、災害発生時の協力体制を構築している。日頃から職員は自主的な訓練や防災器具の点検を行うなど、職員全員で防災意識を高められるよう努めている。また、職員は訓練実施後に救命講習を受けるなど、利用者の安心安全な生活を守るために災害対策に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人の尊厳を傷つけない対応と言葉使いに気をつけている。職員の理念にも「一つの家族」を掲げ、利用者本位のケアに努め、個々のプライバシーに配慮している。広報誌への写真掲載も本人、家族の了解を得ている。	
			(外部評価) 利用者と同じ目線に立って無理強いをしない支援に努めたり、言葉づかいにも注意を払ったりするなど、職員全員で意識した対応をしている。利用契約時には家族と十分な話し合いを行い、広報誌への顔写真掲載など個人情報の取り扱いも同意を得て適切に対応している。職員から利用者を人生の先輩として尊敬して接する姿勢を伺うことができた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の自己決定や思いを伝える事が出来るように、待つゆとりをもって支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人のペースを尊重し、自発的にできるような支援を心掛けて いる。アイデア等は提供しているが、何事も強制はしな い。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援している	(自己評価) 外出時やイベント(家族会等)時の洋服選び、身支度、理美 容についても希望を聞き、支援している。出張美容の方の サービスでお化粧品等もしてもらい、とても喜ばれている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひと りの好みや力を活かしながら、利用者と職 員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 自家菜園の世話や収穫、料理の下ごしらえ、食後の片付け、 お膳拭き等各人の出来る力を活かして、一緒に楽しく食事が 出来るよう支援している。	
			(外部評価) 管理者が1週間分の献立を作成しているが、利用者からリク エストが出された場合には臨機応変に対応している。調理に は家庭菜園で収穫した野菜を使用することが多く、年間を通 じて野菜を購入することは少ない。行事には特別メニューを 取り入れたり、外食支援をしたりするなど、利用者に「食」 を楽しんでもらえるよう配慮している。利用者は職員と同じ テーブルを囲み、会話を楽しみながら食事をすることができ ている。また、下ごしらえや配膳など、利用者ができること を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を 通じて確保できるよう、一人ひとりの状態 や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の摂取状況、水分摂取量は毎日チェックし、誰が見ても 把握できるようにしているが、水分量が少なめの人もあり、 最低でも1000ml摂取出来るよう、こまめな水分補給に努め ている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応 じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に必ず歯磨きや義歯洗浄が出来るよう、全員傍につい て支援している。一部の人は舌苔ブラシを使用し口臭防止に 努めている。歯のない人も嗽をして口の中に残渣を残さない よう気をつけている。義歯は週1回ポリデント洗浄し、コッ プ、歯ブラシはハイター消毒をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 全員トイレで排泄している。その人に応じて布パンツ、パット、紙パンツと使い分けている。排泄記録を基に、さりげなくトイレ誘導をしており、パット汚れを少なくして、ごみ減量と経済面にも気を付けている。紙パンツから布パンツへと移行できた人もいる。	
			(外部評価) 日中は利用者全員トイレでの排泄支援をしている。利用者の状態に合わせて、夜間帯などにパットや紙パンツを使用する場合もある。適切な排泄用品を使い分けたりトイレに誘導したりすることにより、紙パンツから布パンツに移行できた事例もある。排泄チェック表は細かく記録され、一人ひとりのリズムやタイミングを把握するよう努めている。2か所あるトイレは状態に合わせて使い分けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 適切な水分補給、食物繊維の摂取、散歩、体操など行っているが、緩下剤を使用している人は多い。下剤の管理調整を毎日、個人別に細かくチェックし、便秘や下痢にならないように気を付けている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 当日の本人の体調や希望を聞きながら、一人ずつゆっくり入浴を楽しんでもらえるように、プライバシーと安全面に気を付けている。入浴は一対一でのコミュニケーションの場としても捉えている。普段は物静かな方からも色々話を聞く良い機会でもある。	
			(外部評価) 一日おきの入浴を基本としているが、利用者の希望があれば毎日入浴できるよう支援している。利用者が一人でゆっくり入浴できるよう支援をしており、利用者の順番の希望などの配慮もしている。入浴を嫌う利用者には無理強いしないよう、声かけやタイミングを工夫している。昨年からは浴室にリフトを設置し、利用者の状態に合わせて使用することもあり、安心安全で気持ちよい入浴を楽しめる支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中も静養したい方には、室内の明かりを調節して休んでもらっている。冷暖房の調節、寝具の調節を適宜行い、各人のペースで安眠できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服用している薬の効果や副作用がわかる説明書を個人ファイルで確認できる。薬の変更は個人記録と申し送りで全職員が解るようにしている。誤薬のないように、その都度名前と顔を確認し、声に出して完全に服用できるように心掛けている。服薬による症状の変化は主治医に報告している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) それぞれが持てる力が発揮できていると思われる。掃除、洗濯物たたみ、お膳拭き、食器拭き、野菜の収穫等日常生活の役割を分担し職員と共に行っている。散歩、買い物、通院等が昔の記憶を呼び起こせるのに良い刺激となっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は努めて外に出るようにしている。園庭での外気浴、車椅子での散歩、地域内のイベント参加、花見、イルミネーション見学、かまぼこ展、外食等出来るだけ外出できるように支援している。 (外部評価) 事業所周辺はのどかで、外気浴を兼ね日常的に散歩が行われている。隣接する百菜園で野菜や花などを栽培しており、利用者と一緒に見回りや水やりをしたり、玄関先で花壇造りをするなど屋外に出る機会を多く作っている。ドライブがてら外出したり、花見やホワイトファームでのお茶会、城川かまぼこ展に出かけたりするなど、年間の外出行事も計画している。また、外出時には家族に協力してもらい一緒に出かけることも多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には管理者が管理している。少額を持っている人もいる。一部の人ではあるが、欲しい物があれば、預かっているお金で一緒に買い物に行き欲しい物を自分で選んでもらうようにしている。地域のパン屋さんの移動販売を利用して好みのパンを購入していたが、パン屋さんから選ぶのに時間がかかりすぎ仕事に差し支えると言われ、現在中断している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 面会が多いので手紙や電話のやり取りは少ない。自分で電話を掛けたいとの要望があればその都度掛けてもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 明るく清潔に、温度、湿度、換気、消臭等に気を配りながら気持ちよく過ごしてもらうようにしている。行事等の写真を貼ったり、利用者作の塗り絵、川柳等を展示したり、季節の花を活けたりと生活感を感じられるように工夫している。</p> <p>(外部評価) 壁には季節の飾り付けや利用者の詠んだ川柳が飾ってある。リビングには利用者が作ったダルマが様々な表情で座っている。テーブルには絶やすことなく花が生けられており、利用者には生活感や季節を感じてほしいという職員の思いが伝わってくる。床暖房が設置されて暖かく、ソファや畳コーナーなど利用者はゆっくりくつろいでいる。管理者は共用空間の臭気に気づかい、清掃をこまめに行うことにより衛生管理を徹底し、利用者が居心地よくまた気持ちよく過ごせるよう努めている。また、交流館を増設しており、地元住民とカラオケ大会などの交流に活用している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファに座る位置も利用者に合った高さにして、足が疲れないように工夫している。食堂の椅子、ソファ等それぞれ思い思いの気に入った場所がある。話をする人、テレビを観る人、居眠りをする人とそれぞれに寛いで過ごされている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居時には、使い慣れた物を持って来て頂くようにしている。仏壇を持参されている方には、毎朝お茶湯の支援も行っている。誕生日の写真や家族の写真を飾って、大切な人を忘れないようにしている。動物のカレンダーやスタッフ手作りの壁面飾りなども掲げている。</p> <p>(外部評価) 家族との写真が飾られている居室もあり、特に孫の写真は利用者に笑みと元気を与えることに繋がっている。位牌の持ち込みがある居室には毎朝の茶湯を備える支援もしている。入り口には職員手作りの暖簾が掛けられ、温かい雰囲気づくりをしている。備え付けのクローゼットは担当職員職員の支援を受けながら整理されている。居室への持ち込みの規制はしていないが、シンプルにまとめられており利用者の移動にも妨げとならないよう配慮している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 居室、廊下、トイレ、浴室、玄関、非常階段には手すりを設置して、安全面と身体機能の維持に配慮している。トイレや居室にはその人の目線に合わせた目印やネーム札をつけ場所がわかりやすいようにしている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891400016
法人名	あいの里有限会社
事業所名	グループホームあいの里
所在地	西予市阿下6号588番地
自己評価作成日	平成 26 年 12 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 1 月 29 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

26年度より音楽療法を取り入れている。毎月、職員会の後で、専門の音楽療法士よりスタッフが講習を受け、日中に利用者と一緒に音療を行っている。まだ初歩の段階だが、ゆくゆくは極めて行きたい。又、広い交流館があることで各種演芸ボランティア団体の慰問も数多くあり、その時は地域の方にも必ず声掛け、参加して頂き、利用者と顔なじみの関係を構築、楽しみに繋がっている。本格的なカラオケも購入し、カラオケを利用したりハビリ体操や、ビンゴゲームも好評を博している。広い菜園では四季折々の花や野菜を栽培し、利用者の方と一緒に収穫し、採れ採れの新鮮な野菜をふんだんに食卓に乗せる事が出来るのもあいの里ならではの自負している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に囲まれた高台にある事業所の家庭菜園(百彩園)では、四季折々の野菜や花を地域住民や利用者に手伝ってもらいながら栽培している。利用者は畑に出ることで季節を感じることができ、収穫期を利用者は楽しみにしており、近隣におすそ分けもしている。事業所に増設した交流館にはステージを備え、カラオケ大会や演芸のボランティアなど、地元住民との交流を兼ねたイベントを盛んに行なっている。また、今年度から音楽療法を取り入れ、専門家から職員が指導を受け、利用者には落ち着きのある生活が送れるよう支援している。管理者と職員は利用者寄り添いながら、人生の先輩として尊敬の念を持って支援に取り組んでいる。また、愛媛県地域密着型サービス協会から研修参加に熱心な事業所として表彰を受け、職員が研修に参加しやすいようサポートを行うなど職員育成に力を入れており、今後も職員の質の向上が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあいの里

(ユニット名) ひまわり

記入者(管理者)

氏名 松本 光枝

評価完了日 平成 26 年 12 月 20 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ホーム内の目につきやすい場所に数カ所掲示し、お互いに意識しながら実践するよう心がけている。利用者さんの中には、声を出して読む方もおられ、再認識している。</p> <p>(外部評価) 理念は玄関や各ユニット、事務所の目につく場所に掲示し職員全員で共有している。毎月の職員会で利用者への接し方について話し合い、意識づけを行っている。また、理念を踏まえて年間目標を作成し、年末に評価し反省点があれば次回に繋げられる新たな目標を作成し、実践に繋げている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 開所当初から自治会に加入し、行事等に参加している。地域の方にカラオケの練習の場としても交流館を提供しており、利用者さんも一緒にカラオケに参加させて頂いている。ボランティア演芸があるときはご近所の方達にも声かけし、一緒に楽しんでいる。</p> <p>(外部評価) 事業所には百彩園という立派な家庭菜園があり、地域住民に収穫などを手伝ってもらい協力関係ができています。収穫時にはジャガイモなどの野菜を近所におすそ分けするなど、地域との気軽なつきあいができています。地域の祭りには牛鬼や亥の子などが立ち寄ってくれたり、近くにある老人保健施設の運動会や納涼祭に出かけるなど交流をしている。自治会に入会し、地域行事に積極的に参加するなど地域とのつながりを大事にしている。事業所にはステージのある交流館を増設しており、近隣住民とのカラオケ大会や演芸のボランティアの受け入れなど、幅広く交流に活用している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域のボランティア活動(笑いヨガ、演芸、カラオケ等)を積極的に受け入れながら交流している。利用者との関わりを持つ事により、認知症を理解して頂いている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 定期的に会議を開催し、利用者の状況やサービス状況を報告、課題等については適切なアドバイスを頂く等サービスの向上に役立っている。委員さんのメンバー交替も適時実施しており、新鮮な目線での意見もありがたい。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は家族、民生委員、地域代表、元施設長、社会保険労務士、市担当者、地域包括支援センター職員等の参加を得て開催している。会議では利用者の状況や行事等の説明、課題等を報告し、参加者と話し合いをしている。会議で話し合われた内容から、地域の消化栓とホース収納庫が事業所内に設置され、防火対策にも繋がっている。管理者は他の事業所のモデルになれるような事業所づくりに取り組んでおり、参加者の意見をサービス向上に活かしている。また、新たな参加者の呼びかけや、利用者や職員が順次参加できることも検討している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市の担当者と地域包括支援センター長には運営推進会議に委員として参加して頂いている。常に情報の提供や相談にも乗って頂き協力を得ている。また、年3回の介護相談員さんの訪問を受け入れている。</p> <p>(外部評価) 市担当者と地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加しており、事業所の様子を知ってもらうほか、利用者の相談をしたり必要なアドバイスを受けたりするなど、相互の情報共有を行い良好な関係を築いている。ヒヤリハットも迅速に報告している。また、年3回介護相談員を受け入れ、利用者の話をゆっくり聞いてもらっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 外部の研修会や勉強会で正しく理解するよう努め、拘束をしないケアを心がけている。やむを得ず拘束する場合は同意書をとっている。2階の両サイドの非常口は転落の恐れがあり、施錠をしている。</p> <p>(外部評価) 職員は利用者に寄り添い、見守ることで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、勉強会やミーティング等で身体拘束をしないケアについて話し合い、職員は正しい理解をして実践している。日中玄関は施錠せず、利用者は自由に出入りすることができる。現在、骨折後の利用者の安全面に考慮し、医師の指示と家族の希望もあることから同意を得て、車いすのベルトを使用している利用者がある。また、言葉での拘束にも職員全員で意識しながら、適切な対応をするよう心がけている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 日頃から言葉使いには気を付けている。目に付いたら職員同士で注意し合うよう努めている。職員会等でも議題にあげ注意喚起をしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 利用者の中に日常生活自立支援を受けている方があり、関係者と連絡をとっている。成年後見制度については現在該当者はいないが、今後勉強していきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時に時間をとって説明を行い、納得を得ている。いつでも不安な事や心配ごとは気軽に相談できるように配慮している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会時や担当からのお便りを通じて、意見や要望を聞くようにしている。年1回の家族会の時、家族のみでの話し合いの場を設け、忌憚のない意見を出して頂き、より良い運営につなげている。	
			(外部評価) 面会時や運営推進会議に参加した際に、家族に職員から話しかけるなど会話する機会を多く持つことで、思いや意見を聞くよう努めている。年1回家族会を開催し、職員が手作りの食事でもてなすなどの交流を図っている。家族会では家族同士で話し合い時間を共有することにより、率直な意見が出されている。また、利用者毎の担当職員が2か月毎に写真を添えて便りを書くなど、きめ細かな対応をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月職員会を開催しており、代表者も必ず参加して、職員からの意見、要望を聞き、改善できる所は速やかに対処してもらっている。また、職員会の後に音楽療法の講習を受け、利用者に提供している。	
			(外部評価) 職員会や主任会で職員の意見や要望を聞くよう努めている。職員会には代表者が参加し、職員は意見を直接伝えることもできる。職員から提案が出された加湿器や吸引ノズル、酸素飽和度測定器など利用者に必要な物品を揃える対応をしている。代表者の意向で、業務がマンネリ化しないよう年1回職員の異動を行っている。また、研修にも参加しやすいようサポートを行うなど職員育成にも力を入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の勤務状況は代表者が十分に把握されている。各自が向上心を持って働けるように努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 常勤、非常勤の区別なく希望する研修には参加でき、参加費の負担、勤務扱い、時間給支給、交通費の支給など研修に参加しやすい体制をとっている。研修参加人数の多さで南予ではいつも表彰を受けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会主催の相互研修事業にも毎年参加し、他施設との交流を図っている。各種研修会を通じての交流もできている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居後は早期にセンター方式を活用し、今までの暮らしぶりや、本人の意向を聞き、本人が安心して暮らせる関係作りに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 担当者が2ヶ月に1回、家族に近況報告のお便りを書き、意見や要望も伺うようにしている。面会時にも家族の話聞き、良い関係を築くように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の方が先ず何が必要かを十分話し合い、状況を見極めながら対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩として、生活のパートナーとして日々支え合っている。コミュニケーションを図り、利用者のできる事は生活の一環として手伝ってもらっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者さんの担当を決め、定期的にお便りを書き、近況を報告し、より良い関係を築いている。家族にしかできない支援等は協力をお願いしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族だけでなく、近所の方等の面会も多い。また、利用者共通の知り合いもあり、一緒に話をされることもある。 (外部評価) 地元の利用者が多く、地域行事に参加の際や外出時に友人や知人など馴染みの人に出会うことも多い。事業所には知人の面会も多く、職員は快い対応をしている。馴染みの美容室や場所などに、家族の協力を得ながら出かけられるよう支援している。定期的に訪問のあるボランティアや受診時に出会う医療関係者との馴染みの関係もできており、利用者の楽しみに繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクや体操、軽作業を一緒に行う事で、気遣いや助け合う場面も見られる。仲良くお話をして過ごされる事も多い。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院になった時は面会に行ったり、退去後家族と出会った時は様子を伺ったりして関係を大切にしている。葬儀にも参列したり、弔電を送ったりしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 月1回の職員会で話し合ったり、カンファレンスでは担当者が中心となって、本人、家族の思いや意向を確認しながら検討している。 (外部評価) 日々の生活の中で職員から声をかけ、利用者の思いや意向を把握するよう努めている。特に夜間や入浴時など職員と1対1になった時に、利用者から思いを聞くことが多い。利用者が生活を送るうえで、職員がふと感じたことや利用者が言葉に表したことを川柳として書き残している。調査日には、95歳の利用者が職員に笑みを浮かべながら紙に鉛筆を走らせている光景を見ることができた。利用者毎の担当職員を中心に、新たに知り得た情報は記録に残して職員間で共有し、利用者の思いを大切にしたい支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の訪問調査での本人、家族からの聞き取りや、関係者からの情報、また面会時の友人、知人、親戚の人からの話でこれまでの暮らしの状況を把握するよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の生活の中で、本人が拒否しない限り、できることは一緒に行っている。体操、散歩、レク等も一人一人可能な範囲でできるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアプランの作成や見直しは3ヶ月毎に家族や本人の意向を聞き、プランに反映している。身心状況の変化に応じてモニタリングを行い、的確な対応ができるように努めている。また、介護記録にはケアプランが一目で解るようにしてあり、記録中にも評価ができるようになっている。	
			(外部評価) 利用者や家族の意向や要望を事前に聞き取り、職員全員でカンファレンスを行い、利用者毎の担当職員を中心に利用者本位の支援に繋がる介護計画の作成に努めている。前回の外部評価での期待したい内容から支援記録の様式を見直し、介護計画に基づいた経過記録が記録できるよう改善されている。定期的にモニタリングを行い、職員全員の意見や気づきを大切にしながら、介護計画がより良いものになるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人記録や申し送り、引き継ぎ等で日々の暮らし方や身体状況を把握し、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の希望に応じた外出支援、かかりつけ医の受診往診、町外の専門医の受診、理美容室の利用など個々の希望に添った支援を行っている。出張美容も利用している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域住民、各種ボランティア、地域の子供達、運営推進委員、民生委員、介護相談員、生活支援員など、多方面からの支援を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 9月より家族の同意を得て、訪問診療を利用している。待ち 時間も少なくなり、利用者さんの負担も減った。きめ細かく 丁寧に診察して頂き、安心感がある。往診もして頂き、緊急 時は専門医を紹介してもらっている。心療内科、精神科、眼 科、耳鼻科など総合病院の専門医を受診している方もある。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医を受診できるよう支援 している。協力医の月1～2回の往診や急変時に24時間対応 できる協力体制が整っていることから、希望して協力医をか かりつけ医に変更する利用者も多い。協力医は電話にも快く 対応してくれることから、職員の安心感にも繋がっている。 専門医の受診は家族同行を基本としているが、同行できない 場合には職員が受診介助を行い受診内容を家族に報告するな ど情報を共有している。事業所では利用者が安心して適切な 医療を受けられるよう支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 看護師は週1回勤務し、利用者の健康管理を行っている。技 術的な指導や適切なアドバイスも受けている。緊急時には連 絡し、処置や通院もしてもらうことがある。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時にはこまめに病室を訪問し、状況把握に努めている。 病院、家族との連絡、連携を図り、早期退院に向けて情報交 換を行っている。洗濯物等の支援も行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居前に、状態が悪くなった場合、ホームでの対応には限界 がある事を家族に伝えている。また口から食べれなくなった 場合はどうするかなども早い段階で家族で相談して頂くよう 話をしている。家族で看取りを希望される方もいるが、現段 階では難しい。</p> <p>(外部評価) 「看取り指針及び対応マニュアル」を作成し、利用開始時に 事業所で対応できる内容を説明している。今までに事業所 での看取り経験はない。利用者が重度化した場合は家族に説明 し、入院措置や訪問看護の利用などの対応策を伝え、意向を 確認している。家族から事業所での看取り希望が多いことか ら、管理者は関係者を交えて職員間で話し合い、看取り支 援の体制づくりを考えている。また、心肺蘇生やAEDの使用 方法など緊急時対応の研修を実施し、職員全員で意識して対 応できるよう努めている。</p>	「看取り指針」を定めているが、まだ事業所では看取 りの経験がないため、継続して研修を実施することを 期待したい。また、家族から看取り希望が出されて いることから、利用者や家族の要望に応えられるよう医 療との連携など協力体制づくりを職員全員で話し合 い、職員が不安なく終末期ケアに取り組めることを期 待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 原則、前年受講できなかった職員が消防署の救急救命を受講し、応急手当や初期対応、AEDの使い方を学んでいる。これまで殆どの職員が受講している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、定期的に避難訓練を実施している。夜間想定での避難訓練時は近所の方にも協力を得ている。 (外部評価) 年2回避難訓練を実施しており、うち1回は消防署が立会うほか夜間を想定した訓練を実施している。訓練には近隣住民の参加があり、災害発生時の協力体制を構築している。日頃から職員は自主的な訓練や防災器具の点検を行うなど、職員全員で防災意識を高められるよう努めている。また、職員は訓練実施後に救命講習を受けるなど、利用者の安心安全な生活を守るために災害対策に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人の尊厳を大切にし、人生の先輩として敬い、言葉使いにも気を付けている。 (外部評価) 利用者と同じ目線に立って無理強いをしない支援に努めたり、言葉づかいにも注意を払ったりするなど、職員全員で意識した対応をしている。利用契約時には家族と十分な話し合いを行い、広報誌への顔写真掲載など個人情報の取り扱いも同意を得て適切に対応している。職員から利用者を人生の先輩として尊敬して接する姿勢を伺うことができた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の意志を尊重しており、できるだけ自己決定できるよう支援している。思いや希望を伝える事が難しい場合、普段の会話や様子からくみ取るよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人のペースを尊重し、希望に添って支援するようにしている。何事も強制はしないようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出やイベント時には、希望を聞き、洋服選びをしている。出張美容を利用し、化粧などもしてもらっている。希望者には、町内で化粧品の購入も行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 自家菜園があり、職員と一緒に収穫したり、一人一人の出来る力を活かして、野菜の皮むき、食後の片付け等を手伝ってもらっている。 (外部評価) 管理者が1週間分の献立を作成しているが、利用者からリクエストが出された場合には臨機応変に対応している。調理には家庭菜園で収穫した野菜を使用することが多く、年間を通じて野菜を購入することは少ない。行事には特別メニューを取り入れたり、外出支援をしたりするなど、利用者「食」を楽しんでもらえるよう配慮している。利用者は職員と同じテーブルを囲み、会話を楽しみながら食事をする事ができている。また、下ごしらえや配膳など、利用者ができることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事や水分の摂取量は毎日チェックし、一人一人の状況が判るようにしている。水分量の少ない人は好きな飲み物を提供したり、こまめに水分補給をする等気を付けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、傍に付いて口腔ケアを行い、清潔保持に留意している。自分でできない人は職員が支援している。義歯は定期的にポリドント洗浄をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個人の排泄リズムを把握し、時間を見計らってトイレ誘導をしている。尿意の解らない人も日中はトイレで排泄できるように支援している。	
			(外部評価) 日中は利用者全員トイレでの排泄支援をしている。利用者の状態に合わせて、夜間帯などにパットや紙パンツを使用する場合もある。適切な排泄用品を使い分けたりトイレに誘導したりすることにより、紙パンツから布パンツに移行できた事例もある。排泄チェック表は細かく記録され、一人ひとりのリズムやタイミングを把握するよう努めている。2か所あるトイレは状態に合わせて使い分けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個人の排泄チェック表を記録し、便秘に注意し、下剤管理を適切に行っている。散歩や体操等の運動を行い、水分と食物繊維が適切に摂れるよう心掛けている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週3回の入浴ができるように支援している。入浴時はリラックスして会話を楽しんで頂き、全身の状態を観察し、気付いた事は報告している。入浴できない場合は清拭や足浴を行い、衣類の交換をして清潔保持に努めている。	
			(外部評価) 一日おきの入浴を基本としているが、利用者の希望があれば毎日入浴できるよう支援している。利用者が一人でゆっくり入浴できるよう支援をしており、利用者の順番の希望などの配慮もしている。入浴を嫌う利用者には無理強いしないよう、声かけやタイミングを工夫している。昨年からは浴室にリフトを設置し、利用者の状態に合わせて使用することもあり、安心安全で気持ちよい入浴を楽しめる支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個人に合わせて、室内の照明、冷暖房の調節を行っている。毛布や低反発マットを各自で用意されている方もいる。各人のペースで安眠できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人ファイルに処方箋を閉じて職員間で情報を共有している。処方薬の変更もその都度再確認し、誤薬のないよう注意している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人一人が持てる力を発揮できるように、日々の生活の中で役割分担し、職員と共に行い、気分転換や楽しみにつながるよう支援している。コーヒーも個人の好みを大切にしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は散歩や日光浴等利用者の状況に合わせて支援している。地域内や他施設でのイベントにも参加し、かまぼこ展やイルミネーション見物にも出かけている。家族が外出の支援をして頂く事もある。 (外部評価) 事業所周辺はのどかで、外気浴を兼ね日常的に散歩が行われている。隣接する百菜園で野菜や花などを栽培しており、利用者と一緒に見回りや水やりをしたり、玄関先で花壇造りをするなど屋外に出る機会を多く作っている。ドライブがてら外出したり、花見やホワイトファームでのお茶会、城川かまぼこ展に出かけたりするなど、年間の外出行事も計画している。また、外出時には家族に協力してもらい一緒に出かけることも多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には管理者がお金の管理をしている。自己管理の出来る人は少額を所持している。買い物の希望があれば同行し、欲しい物を自分で選んでもらうようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば家族等に電話をかけて頂く。家族との手紙のやり取りを頻繁にされている方もあり手紙の投函等の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花を絶やさないようにいつも飾っているので、利用者さんから大変喜ばれている。掲示物も季節、行事毎に貼り替えている。冬の乾燥期には加湿器を使用している。	
			(外部評価) 壁には季節の飾り付けや利用者の詠んだ川柳が飾ってある。リビングには利用者が作ったダルマが様々な表情で座っている。テーブルには絶やすことなく花が生けられており、利用者には生活感や季節を感じてほしいという職員の思いが伝わってくる。床暖房が設置されて暖かく、ソファや畳コーナーなど利用者はゆっくりくつろいでいる。管理者は共用空間の臭気に気づかい、清掃をこまめに行うことにより衛生管理を徹底し、利用者が居心地よくまた気持ちよく過ごせるよう努めている。また、交流館を増設しており、地元住民とカラオケ大会などの交流に活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 天気の良い日は外に出たり、テレビを観たい人はソファ、音楽を聴きたい人は自室、軽作業をする人は食堂のテーブルと、それぞれが好みの場所で過ごされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自分の使い慣れた家具等持参されている方もある。各自の居室には誕生日の写真、家族や動物の写真等飾り、落ち着いて生活ができるよう工夫している。	
			(外部評価) 家族との写真が飾られている居室もあり、特に孫の写真は利用者に笑みと元気を与えることに繋がっている。位牌の持ち込みがある居室には毎朝の茶湯を備える支援もしている。入り口には職員手作りの暖簾が掛けられ、温かい雰囲気づくりをしている。備え付けのクローゼットは担当職員職員の支援を受けながら整理されている。居室への持ち込みの規制はしていないが、シンプルにまとめられており利用者の移動にも妨げとならないよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ホーム内は安全に生活できるようにバリアフリーで適所に手すりを付け、わかりやすい目印も付けている。福祉用具も適宜使用し、自立支援と安全な環境作りに努めている。	